

受講番号 18086 学校名 佐川中学校 氏名 宮崎 恵美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年2組 生徒数 30名
 科目名 3年 単位数(授業時数) 4時間時間 使用教科書名 New Horizon 東京書籍

クラスの様子・特徴

3年生122名、4クラスの1つ3年2組は生徒数31名で、全体的におとなしく指示されたことは前向きにやっていこうとする生徒が多いクラスである。がクラスの1/4の生徒が英語に対し苦手意識が強く、基礎基本が身につけていない。

問題の確定

すべての技能に関わる音読が不十分であり、音読の徹底を図り、読めるようになることが生徒の自信につながると確信する。

予備調査

A 授業の観察

本文の読みの練習で声が出ていなかったり、英文の意味を教師が説明したり生徒に言わせたりする時、その意味の箇所が分からない生徒がいる。さらに重要構文学習後のワークシートを自分で解けない生徒がいる。

B 生徒による授業評価

英語の授業に関するアンケートを実施すると「単語を読めない。意味がわからない。」という生徒が1/4存在し英文を作ることは多くの生徒が苦手と感じており、英文を読む力、問題を解く力を身につけたいと思っている。

C 学力データ

「英検4級の長文の一部」の正解率は8割以上正解10人、2割未満が7人であり、さらに「基礎単語100問の意味の確認」では8割以上正解が6人、2割未満が5人であり、クラスの2割の生徒が十分な基礎基本が身に付いていないことが分かる。

リサーチ・クエスチョン

英語に対する苦手意識を無くし、基礎的な単語、語句を理解させ、意欲的に音読に取り組むにはどうしたらいいのだろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

「Reading For Communication」のパートで意味を確認するときに、句ごとに切っていく習慣が付けば、英文を文頭から読むくせがつき、本文全体の概要がつかめるだろう。

実践1

最初本文の意味プリントを配り、読みの練習を行った後、本文写しをさせたノートに句ごとにスラッシュを入れさせ、意味を句ごとに確認させ、最後に文全体の確認をさせていった。意味を句ごとにすぐに理解させるのは少し難しいと思い授業の最初10分間でこの日に習う本文の単語、語句のまとめシートを配り、読み、意味のチェックを生徒対先生でやっていった。(9月～10月)

検証1

教科書の1pを、2時間かけて上の形の授業を行っていたが、生徒達には文頭から日本語にして理解していくことは難しかったようである。句ごとの意味を書いていく時間も与えたが、授業の始めに単語、語句シートを配って練習したにもかかわらず、多くの生徒が「この意味は何ですか」と質問してきた。本文全体での語句の意味、まとまりがまだ理解できていないことがわかった。本文をもっと読みこなす必要があると思った。

仮説2

授業の始め(5分)に単語や語句に関するペアワーク活動やそのペアワークで学習している単語、語句、構文の確認テストを繰り返し実施していけば語彙が増え力が付いていくであろう。(10月から11月)

実践2

読めない単語を覚えるのは困難である。それを解消して全員参加できるように、最初読めない生徒にはカタカナふりのペアシート(チェックシート)をかませ、毎時間授業の最初の10分間で、単語、語句、重要構文の読みや、意味のチェックをペアや、教師対生徒で行った。また口頭だけの理解にとどめなかったので2日に1回の割合でペアシートの確認テストも行うようにして書く力も伸ばすように務めた。

検証2

毎時間続けていくことが力をつけさせる一番の近道であることが分かった。定期テストでこの確認テストの中の重要構文は出すようにしているが7割近い正解率であった。また授業の途中で前回習った構文を言えばほとんどすぐにその意味が返ってきた。特に英語を苦手とする6～7人のメンバーの中の3人は重要構文のならばかえが正解であった。

仮説3

「Reading For Communication」のパートでは一回の授業で本文の音読を8回以上行えば、自然に単語、語句が読めるようになり自信がついてくるだろう。(11月～12月)

実践3

読み中心の1時間の授業を行うことにした。授業の流れとして リピート2回 タイム計測 バズ読み ジャンケン読み(ペア読み) 語句の英訳読み Look and Skying タイム計測までとし、1時間で8回以上本文を読ませることを目標とした。これ以外に、シャドウ読みや、意味読み、3分での計測読みを実施した。テンポよい授業を心がけ、また生徒が飽きないように、バズ読みでは読み終えた生徒に拳止させた。

検証3

生徒の授業状態を観察していると楽しみながら50分の授業の中で10回近く本文を読み、自信をつけていっている。前時のページの本文読みを班単位でチェックすると、ほとんどの生徒は全文読むことができ、全然読めない生徒は存在しない。途中つまる生徒も2～3の単語だけである。またアンケートの結果を見てもほとんどの生徒が本文を読むことにに対し、抵抗がなくなり、読めて意味が分かり始めたことに満足している。

研究の成果

本文の音読指導を飽きさせないよう、短調にならないように工夫しながら進めていく中で、生徒達は積極的な音読をし始め声も大きくなった。ほとんどの生徒が以前より読むことに興味を示し楽しみながら、また内容を考えながら音読ができるようになったことは大きな成果である。さらに、読めることが英語に対する苦手意識の解消につながり、自信にもつながっていった。また生徒同士の関わりを大切に考えペア学習を取り入れたことは意欲を引き出すいい結果となった。

今後の授業改善の課題

苦手意識が強い生徒の実態を理解しながらも、最初に仮説1から始めたことは無理があったと反省している。単語、重要構文の確認、本文の読みを十分行った上で意味理解へ進めていけば仮説1はもっと効果がでたであろう。また今後は「教科書を読める」という音読指導だけにとどまらず、他の読み物教材に幅を広げたり、話したり書いたりする自己表現活動へとつなげていきたい。4技能全体が伸びるよう今後もリサーチを続けていく。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0889-22-1255 電子メール

sakawa-j@kochinet.ed.jp